

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

子どもと賛美するために
「風のうた」

論説

子どもの生活リズムの

課題と対策

石井浩子

小論

まなざしからヒトのコミュニケーションの

成り立ちを考える

橋彌和秀



2022 AUG.

8

互いに重荷を負いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。

口語訳聖書・ガラテヤ人への手紙6章2

聖書は積極的に「めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい」（フィリピの信徒への手紙2章4）、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（マタイによる福音書7章12）とすすめます。そして、「互いに重荷を担いなさい」（今月の聖句）と迫ります。「重荷」とは前後関係から「罪に悩む心」を指しますが、その他の悩み悲しみすべてを含む困難と解してよいでしょう。これこそが「キリストの律法を全うすることになる」（今月の聖句）。この律法とは「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」（ヨハネによる福音書15章）を指していると言っていいでしょう。

このことが可能になるのは、キリストが既に私たちの重荷（罪）を負って下さったからで、この恵みに対する感謝が愛の分かち合いのイニシアティブをとらせる原動力となるのです。重荷を担い合い、他人の徳を建て上げてゆく中で、実は自らも成長させられていくのです。

「同情」は英語でシムパシイと言いますが、「シム」（同じ）と「パシイ」（ギリシャ語の「パトス」英語の「ペーソス」から出て、「感情、悲哀」を指す）から出来ており、「共感すること」「悲しみを同じくすること」つまり「重荷を負い合うこと」なのです。それは決して上から下に憐れみを垂れることではありません。

「共に生きる」ということもこの深みで捉えなければなりません。この現代の合言葉は口にするのは容易ですが、文字通り生きることは決して容易なことではありません。キリストの十字架の愛こそ私たちの自己中心性を浄化し、分かち合いや担い合いを可能にしてくれるのです。

私たち保育者は、他者の痛みが分かり、重荷を負い合って共に生きる優しさ、たくましが幼子の心に培われていくように祈らずにはおられません。

吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長
1987年『キリスト教保育』誌8月号より

キリスト教保育

第641号8月号



幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉なぜ？を、説明できますか？ 森野熊八

〈論説〉子どもの生活リズムの課題と対策

石井浩子

〈小論〉まなざしからヒトのコミュニケーションの

成り立ちを考える 橋彌和秀

聖書にさく・お話 篠田真紀子

【カリキュラム】

8月 月のねがい表

心にとめて 大橋愛子

0・1・2歳児 信愛こどもの園

実践からの学び 矢野キエ

絵本のとびら 木村ゆかり

心にとめて 清水真理

3・4・5歳児 聖愛幼稚園

実践からの学び 高田憲治

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也

〈連載〉粘土あそび 江村和彦

目福口福耳福 村田浩子

礼拝のお話 今井直子

図書紹介 倉田彩子 久米小百合

子どもと賛美するために

風 石垣慶子 編集子 東義也

連盟だより

表紙絵

カット

田中慎子

長野祥三

中敵治子

長縄えいこ 金井ユリ
松成真理子 野田美佳

23 24 26 32 33 34 36 43 44 46

50 51 60 61 62 63

